

日本労働社会学会 『通信』

vol. , no . 1 (2003 年 11 月)

日本労働社会学会事務局
〒194-0298 東京都町田市相原町 4342
法政大学大原社会問題研究所
鈴木 玲 (すずき あきら)
TEL:042-783-2317 (研究室直通)
FAX 042-783-2311 (事務室)
e-mail : suzukiak@mt.tama.hosei.ac.jp
(学会ホームページ) <http://www.jals.jp>

(郵便振り込み口座番号)
00150-1-85076
「日本労働社会学会 村尾祐美子」
(銀行振り込み口座番号)
東京三菱銀行 大塚支店
普通 口座番号 1519051
「日本労働社会学会 会計 村尾祐美子」

目次 (今回の『通信』は「議事録特集号」です。大会記録は次号でお伝えします。)

労働社会学会第 15 回大会 総会議事録 (「日本労働社会学会奨励賞規定」を含む)

幹事会議事録

- 1 . 労働社会学会第 15 期第 8 回幹事会議事録
- 2 . 労働社会学会第 15 期第 9 回幹事会議事録
- 3 . 労働社会学会第 16 期第 1 回幹事会議事録

各種連絡

- 1 . 次回幹事会および 12 月定例研究会のご案内
- 2 . 新入会員紹介
- 3 . 追記

労働社会学会第15回大会 総会議事録

・議長選出：幹事会推薦の河西宏祐会員が選出された。

1. 2003年度事業報告（藤井史朗事務局担当幹事）

- (1) 03年度、入会者15名、退会者6名いた。03年10月31日現在、会員数は261名。
- (2) 幹事会は9回開催された。
- (3) 『通信』(Vol.)は6号(no.1~no.6)発行された。
- (4) 定例研究会は7回開催され、10名が報告を行った。

2. 『年報』編集委員会報告（市原博『年報』編集担当幹事）

- (1) 『年報』14号を発行した。今回の年報発行は効率化したため、東信堂からの学会請求分が前回より値下げされた。14号の本体の価格は2900円、東信堂から学会の請求額が85万2600円で、前回より約15万円安くなった。大幅な頁数増がない限り、来年もこの額を踏襲してくれることになった。また、買取り価格の七掛けは維持される。発行部数は1000部で、学会買取りは400部である。
- (2) 今号は新しい企画として、今回の大会シンポジウムのテーマと合致した内容のExtended Reviewを掲載した。今号の原稿入稿が通常より遅れてしまい校正のスケジュールがタイトであった。発行を大会に間に合わせるため、東信堂に大変お世話になった。
- (3) 13号まで3回連続特集で「フィールド調査職人芸の伝承」は一応一回りしたので14号では継続しなかった。この企画を今後どのように続けるのかはペンディングである。

3. 『労働社会学研究』編集委員会報告（大梶俊夫『労働社会学研究』担当幹事）

- (1) 03年度に4号が発行された。現在、5号の編集が進んでいる。最初エントリーが5本あり、4本が投稿され、会員に査読を依頼した。2本については査読結果を踏まえて掲載することを決め、1本については査読を終わった段階で編集委員のなかで審査中である。来年2~3月までには5号が発行される予定である。
- (2) 研究例会の報告については、年度を区切って掲載していたが、掲載される報告がかなり時間を経たものになっていた。5号からは、最近の報告もできるだけ掲載しようと幹事会で確認した。

4. 「ジャーナル4号のいわゆる買取り制度の経過説明とお詫び」について（辻勝次代表幹事）

標記の文書が読み上げられた。現幹事会は、研究例会発表者については買取り制度を廃

止することを決めた。しかし、4号の編集体制が旧幹事会メンバーで構成されており、現幹事会が4号編集委員長からの買取り制度を含めた発行作業状況を報告したメールの内容を十分把握しなかったため、例会発表者の買取り制度が継続する結果となった。10月の幹事会でこの問題を話し合い、5号からは例会発表者の買取り制度は廃止する、4号については関係者への代金返還は行わない、前編集委員長と現幹事会との連絡体制が不十分であり現幹事会が緊張を欠いていた点を反省し、再発防止に努力するとした。直接関係者には、謝罪したい。

5. 研究活動委員会報告（小川慎一研究活動担当幹事）

定例研究会は7回開催され、10名が報告を行った。報告者は主に若手（大学院生）が中心であったが、中堅クラスの会員の報告もあった。また、大会シンポジウムの企画および準備も行った。

6. 2003年度決算報告（村尾祐美子会計担当幹事）

（1）2003年度決算報告詳細については大会配布資料参照。収入は499万3160円、支出（次年度繰越金312万3286円を含む）は499万3160円であった。03年度はカンパ2口があり、これは一般会計とは別の「ジャーナルカンパ会計」に加えた。

7. 2003年度会計監査報告（京谷栄二監事）

会計担当幹事担当幹事から報告があった通り、正しく処理されていた。

8. 学会奨励賞の創設について（藤井史朗事務局担当幹事）

幹事会は、他学会の制度などを参考に議論をして、会員の将来性のある優れた研究を表彰し、さらなる研究発展を支援するため「日本労働社会学会奨励賞規定」（以下参照）を総会に提案した。この提案が承認されれば、2004年の総会で第一回の奨励賞が発表される。第一回奨励賞は、2年間の業績を検討し、2人選出したい。受賞者には、賞状と若干額の副賞が出される。

項目4の「ジャーナル4号のいわゆる買取り制度の経過説明とお詫び」について、土田俊幸（『労働社会学研究』前編集委員長）から、以下の主旨の発言があった。「ジャーナルの買取り制度について、研究例会の発表者が報告書をジャーナルに執筆することを依頼する際、買取り制度があることを伝え了解を得ていた。ただし第4号では、例会発表者の買取り分は負担を考慮し、それまでの10冊から3冊までに減らした。ジャーナル発行が遅れたことが、前編集委員会と現幹事会とのコミュニケーションの齟齬が生じたと思う。」

なお「ジャーナル4号のいわゆる買取り制度の経過説明とお詫び」（項目4）の内容については、総会出席会員から承認を得た。

2003 年度事業報告（項目 1～3 および項目 5～8）は、一括して承認された。

9. 2004 年度事業計画案

（1）幹事会の開催と『通信』の発行について（藤井史朗事務局担当幹事）

今まで同様のペースで行っていく。

（2）『通信』の発行形態について（鈴木玲事務局担当幹事）

会員に学会情報を確実に伝えるために、03 年度に行った受け取り媒体アンケート調査に未回答の会員は『通信』受け取り方法について電子メールか郵送かどちらかの意思表示をしてほしい。学会財政と事務局の事務作業負担の関係から、できれば電子メールで受け取ってほしい。また、電子メールアドレスの変更は、事務局に伝えてほしい。

（3）『年報』の発行について（市原博『年報』編集担当幹事）

今年度は 15 号を発行する。特集として行ってきた「フィールド調査職人芸の伝承」についての意見を寄せていただきたい。また、入稿スケジュールを早めるため、投稿論文の締め切りを早める予定である。締め切り時期は『通信』で連絡するので、投稿希望者は注意してほしい。

（4）『労働社会学研究』発行計画（大槻俊夫『労働社会学研究』担当幹事）

『労働社会学研究』は若手研究者に発表の場を与え、学会の実態調査活性化をはかってきた。幹事会としては、これまでの論文等をみて 6 号以降も発行する方針である。総会で承認を受ければ、継続して発行していく。

（5）研究会開催（小川慎一研究活動担当幹事）

従来通り、幹事会の後に 1～2 名の発表を考えている。若手研究者だけでなく、中堅クラス以上の会員も研究会で発表してほしい。遠距離の大学院生が発表する際は、1 万円を限度に補助を出す。

（6）学会奨励賞の選出（藤井史朗事務局担当幹事）

幹事会は、承認いただいた学会奨励賞を選定に向けた取り組みを行う。

（7）日本学術振興会「学術定期刊行物出版助成」応募について（鈴木玲事務局担当幹事）

学術定期刊行物出版助成に『年報』を応募する可能性を探った。学振の説明会に出たり、他の学会の状況を聞いたり、東信堂に見積もりを依頼するなどしたが、助成要求額が 100 万円以上であること（現予算体制では 100 万円に達しない）、申請書作成作業量が膨大で時間が非常に限られていることなどの理由で、今回（2004 年度）申請は見送ることにした。次回（2005 年度）に応募することを目標として、幹事会は取り組むことを考えている。

（8）2004 年度予算案（村尾祐美子会計担当幹事）

収入については、会員の大きな増減がない前提で会費収入は前年の予算を踏襲している。また年報等の販売に力を入れる前提で、年報等販売収入を 30 万円に設定した。

支出では、年報発行費の減額は、年報発行費が値下げされたことを反映している。郵送費は前年を踏襲する。事務費は、学会奨励賞のための出費のため 20 万円を計上した。ジャーナル発行費は、03 年度は頁数が多かったので費用がかさんだが、04 年度は通常の発行費を前提としている。次年度の繰越金を含めた予算規模は、516 万 3286 円を見込んでいる。（詳細は大会配布資料参照）

事業計画案および予算案についての質疑

鎌田とし子会員「滞納を少なくする工夫をする必要がある。学会奨励賞に対する寄付を是非募ってほしい。」

村尾祐美子会計担当幹事「滞納分の催促をより頻繁にして、できるだけ減らす努力をしたい。奨励賞の図書購入費については 2 年分なので不足が生じる可能性がある。その場合、不足分を『T 基金』からの組み入れる形で補う可能性があることについて了承していただきたい。寄付については、幹事会から皆様をお願いすることになると思うがよろしく願いしたい。」

大黒聰会員「年報とジャーナルの発行費のなかに郵送料は含まれているのか。また、年報等の販売は幹事だけでなく、会員全体で推進して在庫をできるだけ減らしてほしい。」

村尾祐美子会計担当幹事「年報、ジャーナルの郵送費は『郵送通信費』の区分で処理している。03 年度の年報、ジャーナルの郵送費はそれぞれ 3 万弱で、予算内におさまった。」

土田俊幸会員「ジャーナルを発行継続する場合、内容も同じ形で継続するのか。3 号、4 号の編集を担当したが、分量が多いため、論文というより調査報告的なものもあった。投稿論文の枚数をもっと少なくすべきという意見も出された。」

大梶俊夫『労働社会学研究』担当幹事「同様な問題は認識している。もし継続が承認されれば、内容をより良いものにするため検討したい。」

辻勝次代表幹事「これまで編集にかかわった会員との意見交換会を開くなどして、今後ジャーナルの内容・編集方針をどのように改善するのかを検討していきたい。」

『労働社会学研究』（通称「ジャーナル」）6 号以降発行も含めて、2004 年度事業計画案（項目 9）は承認された。

10．社会調査士制度問題への対応について（高橋伸一研究活動担当幹事）

幹事会で社会調査士認定制度への対応を重要な課題として、標準カリキュラム内容を中心に検討した。また、社会調査士制度実施大学懇談会にも参加した。幹事会で議論を交わした結果、労働社会学会としては認定機構に態度・意見表明（文書での提案）をすること

は差し控えることになった。

11. 次回（第16回大会・総会）開催校（辻勝次代表幹事）

次回の大会開催校は、浅生卯一会員のご努力で名古屋の東邦学園大学が基本的に引き受けていただけることになった。ただし、入試との関係で日程調整が必要である。日程が確定次第『通信』を通じ会員に連絡する。

「日本労働社会学会奨励賞規定」

（目的および名称）

第1条 日本労働社会学会は、会員の将来性のある優れた研究を表彰し、さらなる研究発展を支援するため、「日本労働社会学会奨励賞」（以下、奨励賞と略す）を設ける。

（受賞資格者）

第2条 奨励賞の受賞資格者は、原則として本学会に2年以上継続して在籍し、当該年度において満40歳以下の会員とする。ただし年齢制限については、研究歴を考慮する。

（審査対象）

第3条 奨励賞の審査対象となる業績は、表彰の前年の4月1日から表彰年の3月31日までの間に公刊された著書、論文とする。

（表彰）

第4条 奨励賞の表彰は、全国大会の総会においておこなう。

（選考委員会）

第5条 奨励賞の選考のために選考委員会を設ける。選考委員会は、幹事会が委嘱した若干名の委員によって構成される。

2 選考委員会は委員の互選により、1名の委員長を選出する。

3 選考委員の氏名は会員に公表する。

（選考委員の任期）

第6条 選考委員の任期は2年とし、重任しないものとする。

（選考方法）

第7条 日本労働社会学会会員は、奨励賞に値すると思われる著書、論文を選考委員会に推薦（自薦・他薦）することができる。推薦の期間などは、選考委員会が決定する。

- 2 選考委員会は、会員による推薦を受けた著書、論文について選考をおこなう。
- 3 選考委員会は、選考結果を幹事会に報告する。

(規程の改廃)

第 8 条 本規程の改廃については、幹事会で提案し、総会の承認を得るものとする。

(附則)

- 1 . 本規程は、2003 年 11 月 1 日から施行する。

幹事会議事録

1. 労働社会学会第15期第8回幹事会議事録

- ・日時 2003年10月18日(土) 12:30~14:10
- ・場所 専修大学1号館12階社会科学研究所
- ・出席者 辻、市原、大槻、白井、鈴木、清山、滝下、兵藤、藤井、藤田、松戸、村尾、山下。

議題

(1) 研究成果公開促進費の件

学会財政は近年相当に改善されたが、決して余裕があるわけではない。なかでも定期刊行物の出版費が負担になっている。日本学術振興会は「学会定期刊行物への助成」制度を持っているので、これを受けることができないか検討する。こういうことから鈴木事務局長に説明会に出席してもらった。

その結果を受け、鈴木事務局長より、10月16日(木)の研究成果公開促進費説明会参加の様子が報告された。申請条件では、欧文抄録を有する和文誌に該当し、各年度の補助要求額が100万円以上となっている。

この問題について議論し、学会財政厳しい折、補助金の有効活用法を検討しながら、再度幹事会で詰め、その結果を総会にはかることを確認した。

(2) 大会準備

滝下幹事より、大会準備状況について報告された。10月10日段階で、参加予定56名、工場見学25名、懇親会45名。会場使用料を無料にしてもらったほか、立命館大学、産業社会学部などからの援助金で9万円くらいの助成が得られることになった。また、工場見学は「宝酒造」に決まった。

この件について議論し、総会資料については事務局が準備すること、事前に会計報告を監査に依頼することなどが確認された。

次回開催校については、急ぎ検討することを確認した。

また、社会調査士制度の議論については、今度の大会・総会の場でこれまで幹事会で議論した経過や要点を説明することにして、学会としての対外的な見解表明はしないことを確認した。

なお総会は、2003年11月1日(土) 11:10~13:00(以学館31教室)である。

(3) 学会奨励賞の新設

このたび発足予定の「奨励賞」について、賞状の他に副賞を一人2万円とし、審査員3名、受賞候補者5名として、9万円の予算で実施することを確認した。

(4) ジャーナルの買い取り制について

辻代表幹事より、今期幹事会で、今後、研究会報告者のジャーナル10冊買い取り依頼をやめることを決めたが、今回3冊の買い取り依頼を行った件について報告された。

これについて議論し、今回については移行措置として3冊の買い取りをお願いし、次回からは決定通り買い取り依頼を行わないことを確認した。

なお、この問題の経過を見ると決定事項の確認や連絡など、幹事会の体制に弱点があったといえる。関係者にはお詫びするとともに、再発防止に努める旨、申し合わせた。

(5) ジャーナル編集委員会

清山編集委員長より、編集経過について、現在2回目の査読結果が出て、2本は最終修正に入っていること、その他の1~2本については議論しており、編集委員会で最終判断を行う旨報告された。

今後も研究会報告をジャーナルに掲載するかどうかについて議論し、通信で行うことなども含め、検討課題とした。

また、ジャーナル発行を継続するかどうかについて議論し、継続の方向を追求することを確認した。

2. 労働社会学会第15期第9回幹事会議事録

- ・日時 2003年10月31日(土) 17:30~18:30
- ・場所 立命館大学修学館1階会議室
- ・出席者 辻、市原、大梶、小川、白井、鈴木、滝下、田中、藤井、松戸。

議題

(1) 大会に向けての準備

- ・配付資料、総会の議事運営、報告者などについて確認した。
- ・ジャーナル4号の買い取りについての経過説明について、総会で報告することを確認した。

(2) ジャーナルについて

研究例会をできるだけ早く掲載することに関わり、ジャーナル第5号には、今年度9月までの例会報告を掲載することを確認した。

(3) 年報の出版助成について

鈴木事務局長から、東信堂による見積もり、申請作業の全体、期限などについて報告された。これについて議論し、今回は申請を見合わせ、来年度に向けて準備することを検討することを確認した。

(4) 上林千恵子氏(法政大学)の入会が承認された。

3. 労働社会学会第16期第1回幹事会議事録

- ・日時 2003年11月2日(日) 12:00~13:00
- ・場所 立命館大学以学館1階会議室
- ・出席者 辻、小川、大梶、大槻、柴田、白井、鈴木、高橋、藤井、藤田、松戸。

議題

(1) 奨励賞の選定について

総会で承認された「日本労働社会学会奨励賞」について、今後の進め方について議論した。

選考委員候補については、3名を選ぶ、最低一人は女性を入れる、他の学会の選考委員とだぶらないようにする、幹事は選考委員にならない、などの基準を確認した。また、幹事会の研究活動委員から高橋幹事を、選考委員会との連絡調整役割を持つ幹事として選出した。

選考委員候補への委嘱の前に、「奨励賞選考に関わる申し合わせ」のような細則を作ることとし、藤井事務局担当幹事が、次回幹事会までにその案を作ることを確認した。

選考委員会の発足は、1月31日とし、その後選考委員により、通信を介して、5月31日期限内で、奨励賞候補についての自薦・他薦を依頼するという基本方向を確認した。また、総会による選考経過報告については、原則として賞を受けた業績に対してだけ内容的コメントを行う、という方法を確認した。

奨励賞制度発足に当たって、総会で提案のあったカンパの募集を行うことを確認した。

(2) 2004 年度幹事会・研究例会日程

2004 年度の幹事会・研究例会日程について次のように確認した。なお、原則として場所は、専修大学とする。

- ・ 12 月 20 日 (土) 12:30 ~ 14:00、幹事会。14:00 ~ 16:30、研究例会。
- ・ 1 月 24 日 (土) 12:30 ~ 14:00、幹事会。14:00 ~ 16:30、研究例会。
- ・ 3 月 27 日 (土) 12:30 ~ 14:00、幹事会。14:00 ~ 16:30、研究例会。
- ・ 5 月 29 日 (土) 12:30 ~ 14:00、幹事会。14:00 ~ 16:30、研究例会。
- ・ 7 月 17 日 (土) 12:30 ~ 14:00、幹事会。14:00 ~ 16:30、研究例会。
- ・ 9 月 4 日 (土) 12:30 ~ 14:00、幹事会。14:00 ~ 16:30、研究例会。
- ・ 10 月 16 日 (土) 12:30 ~ 14:00、幹事会。14:00 ~ 16:30、研究例会。
- ・ 大会当日

(3) ジャーナルの再検討について

6 号以後の編集方針については過去にジャーナルの編集に携わったメンバーとの検討会を持って問題点について整理することとし、検討会の持ち方などは次回幹事会で提案することにした。

(4) 研究活動委員会

大会自由報告の持ち方について、自由報告がこれ以上増えると部会を増やす必要があること、一人 35 分の発表・討議時間は短いのではないかと、などの意見が出され、検討することとした。

12 月と 1 月の研究例会の候補者について議論した。

5 . 大会担当幹事について

大会担当の幹事の任期や今後の選出、来年大会に向けての大会校の担当会員と幹事会の関係について議論し、今後検討することとした。

各種連絡

1. 次回幹事会および12月定例研究会のご案内

日時：2003年12月20日（土）午後0時30分から幹事会。午後2時から定例研究会

場所：場所：専修大学神田校舎1号館12階社会科学研究所

定例研究会の報告者の報告テーマ：

内藤直人氏（法政大学大学院）

「労働組合が行う労働者供給・派遣事業の実態とその意義」

江頭説子氏（千葉大学社会文化科学研究科）

「シンボリック相互作用論にもとづくキャリア研究」(仮)

2. 新入会員（敬称略）

上林千恵子（法政大学社会学部）

3. 追記

今回の大会総会の場には間に合いませんでしたが、次期16回大会をお引き受けくださった東邦学園大学（名古屋市）の浅生卯一会員から次のメッセージが届いていますのでお伝えします。

「来年度日本労働社会学会の大会を東邦学園大学で開催できるよう努力したいと思います。東邦学園は短大・高校もありますが、大学自体は経営学部だけの小さな大学です。学園は、名古屋駅から地下鉄で約20分、徒歩約15分という交通の便が比較的良く、閑静な住宅街の中にあります。

来年度の大学行事予定がきまっていませんので、日程的に大会開催が可能かどうか、また、会員は私一人しかいませんので、十分な準備ができるかどうか不安な点が多いのですが、開催できることが確定した場合には、多くの会員の参加を歓迎いたします。どうぞ、よろしく願いいたします。浅生卯一（東邦学園大学）」

以上